# 消　化　器　学

【単位数：４単位，授業52コマ，予備３コマ（定期試験含まず）】
当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である

## 1　科目責任者

伊藤　理　教授（呼吸器・アレルギー内科）

科目担当者
伊藤　清顕　教授（肝胆膵内科）
佐野　　力　教授（消化器外科）

## 2　教育目標

### （１）　ねらい（Ⅲ-３-c，Ⅲ-４-c，Ⅲ-５-c）

① 臨床の場において消化器（消化管，肝・胆・膵）及びこれらに関連する疾患の頻度は高い。コアコンピテンスの“消化器系”の理解のためには，内科学・外科学の両分野にわたる知識のみならず，基礎医学で学んだ知識も必要である。本講義のねらいは，消化器疾患の診断・治療で求められる知識，技能，態度を学び，そのことによって“プロフェッショナリズム”の涵養にもつなげる。

② 消化器系の正常構造と機能を理解し，主な消化器系疾患の病因，病態生理，症候，診断と治療を学び説明することができる。

### （２）　学修目標

① 消化器の解剖と機能について説明できる。
② 主要な消化器症候を列挙することができ，内容を説明できる。
③ 主要な消化器疾患の病態を説明でき，症候と関連付けることができる。
④ 腹部領域を中心とする診察法を説明でき，所見を記述できる。
⑤ 消化器診療に必要な各種の臨床検査の概要を説明でき，その意義を述べることができる。
⑥ 各種消化器画像検査法の概要を説明でき，所見を述べることができる。
⑦ 消化器疾患の内科的治療法を列挙し，その適応と限界を説明できる。
⑧ 消化器疾患の外科的治療法を列挙し，その概要と適応を説明できる。

## 3　成績の判定・評価

### （１）　総合成績の対象と算出法

| | 成績対象 | 割合 | 方法・コメント |
|---|---|---|---|
| 定期試験 | ○ | 70％ | 多肢選択問題を原則とし，一部記述式問題を含む場合がある。 |
| 中間テスト | ○ | 20％ | 消化管内科，消化器外科の各分野において終了時に実施する。記述式問題を原則とし，一部多肢選択問題を含む場合がある。 |
| レポート | ○ | 10％ | 肝胆膵内科のTBLにおけるレポートを評価する。 |
| 態度 | ○ | ― | 著しく態度不良の場合10点を限度に減点をする。 |

・定期試験を受験するためには，欠席率が3分の1を越えてはならない。
・定期試験を欠席した場合の救済措置(追試験やレポート提出による得点など)は一切行わない。
・中間テストについては追試験と再試験を行わない。また，中間テストを受験しなかった際の救済措置(レポート提出による得点など)は一切行わず，得点は 0 点とする。
・レポート(TBL，CBL)が未提出の場合は，欠席とし，得点は 0 点とする。
なお，当該講義(TBL，CBL)終了以降に提出されたレポートは一切受け付けない。

### （２）合格基準

評価対象の合計が60％以上（又は60点以上）で合格とする。不合格者には再試験（定期試験に準ずる）を行う。

### （３）再試験・再評価の方法

定期試験と中間テストの合計が60％未満の場合は，再試験を実施する。

再試験は，定期試験に準ずる方法で実施する（60％以上で合格）。

### （４）課題（試験やレポート）へのフィードバック

定期試験や中間テストで正答率の低かった問題，理解が不十分と思われた問題については，学内メールで案内する。

## 4　教科書

| 書名 | 著者名 | 出版社 | 教科書として指定する理由 |
|---|---|---|---|
| 講義前後に AIDLE-K にアップロードされた資料 | | | |

## 5　参考図書

| 書名 | 著者名 | 出版社 | 参考図書とする理由 |
|---|---|---|---|
| 内科学　第12版 | 矢崎義男 | 朝倉書店 2022 | 消化器疾患を網羅し病態についても詳細に記載されているため。 |
| 新臨床内科学　第9版 | 高久史麿 | 医学書院 | 最新の疾患概念と診断・治療をコンパクトにまとめ系統別の総論や症候に関する知識を収録。 |
| 内科診断学　第3版 | 福井次矢，奈良信雄 | 医学書院 | 内科診断学の基本が網羅されている。 |
| イヤーノート 2025 | 岡庭　豊　編 | メディックメディア | 過去の国試で問われた内科外科の知識すべて記載しており，国試で狙われている知識，その範囲が一目でわかる。 |
| カラー版　消化器病学 | 浅香正博，管野健太郎，千葉　勉 | 西村書店 | 消化器病学全般がカラーでわかりやすく網羅されている。 |
| 標準外科学　第16版 | 北野正剛，坂井義治 監修 田邉 稔，池田徳彦，大木隆生 編 | 医学書院 2022 | 最新の疾患概念と診断手術についてコンパクトにまとめられている。 |
| 標準小児外科学　第8版 | 上野 滋 監修 仁尾正記，奥山宏臣，田尻達郎　編 | 医学書院 2022 | 小児外科についての標準的な教科書。 |

## 6　準備学習（予習・復習）

① 授業に臨むに当たり，参考図書の中より選んで，講義タイトルについての簡単な知識を得ておくこと（1コマあたり約15分）。

② 上記参考図書の中で，興味を抱いた項目については，参考図書の記載内容を読んでおく（1コマあたり約0.5時間）。

③ 講義前後にAIDLE-Kにアップロードされた資料や，講義内での小テストについて復習し，以降の講義に臨むこと（1コマあたり約0.5時間）。

## 7　授業計画

### （１）　講義の方法

基本的に大教室での知識伝達型の講義であるが，中間テスト・小テストの他， CBLやTBLなどによる小グループ討論や講師との質疑応答などのアクティブ・ラーニングを導入する。

### （２）　講義の内容

1コマ目に総論として消化器学に関するキーワードを解説し，2コマ目以降は，講義タイトルに沿ったそれぞれの症候，病態，治療などの概略理解を進めていく。それぞれの分野の講義の最後には中間テストにより知識の確認を行う。また，適時，TBL・CBLによるアクティブ・ラーニングを実施する。